

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



8月号 発行 平成26年 8月28日



いわき地方の農林畜産物 モニタリング検査結果

福島県が行った、いわき地方の7月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング検査結果をお知らせします。

(表1) 農林畜産物のセシウム検査結果(7月末現在)

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
20品目	1品目(※)			21品目
	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超過の検体	
44検体	6検体	1検体(9.4ベクレル/kg)	0検体	51検体

※: 牛肉

検査した21品目51検体のうち、20品目44検体において、放射性セシウムは検出限界値以下でした。内訳は(表2)のとおりです。なお、牛肉については、7検体のうち1検体が100ベクレル/kg以下で検出されました。

(表2) セシウムが1点も検出されなかった品目と検体数

ナス 2、菌床なめこ(施設) 1、菌床しいたけ(施設) 2、葉ネギ(施設) 1、カボチャ 4、モロヘイヤ 1、サヤインゲン 1、スモモ(プラム) 1、パレイショ(ジャガイモ) 5、アスパラガス(施設) 1、ツルムラサキ 2、ズッキーニ 1、とうもろこし 3、ミョウガ 2、菌床きくらげ(施設) 1、原乳 4、スイカ 3、枝豆 1、ピーマン 2、小麦 6

7月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されている品目は、(表3)のとおりです。

(表3) 出荷制限及び出荷自粛品目(7月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限(9品目)	野菜・根菜・芋類	—
	果物	ユズ
	穀類	クリ
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、たらめ(野生のものに限る)、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
出荷自粛(1品目)	畜産物	—
	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、平成24・25年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、ご確認ください。(企画部)



梨部会栽培研究会勉強会が 開催されました



7月12日(土)、いわき市内郷の梨園地において、JAいわき市梨部会梨栽培研究会勉強会が開催されました。

梨部会は、平成19年に担い手の育成と新しい技術の研究及び普及を目的として梨栽培研究会を設立し、他産業に仕事を持ち平日の栽培指導会に参加できない生産者の研修のため、休日に勉強会を開催しています。

今回は、会員17名が参加し、市内優良園地の視察を行いました。参加者は、自分の園地の生育状況と見比べながら、着果管理や夏期の新梢管理について熱心に意見を交わしていました。当日は台風8号の通過後のため猛暑となりましたが、品質の良い梨づくりへの熱意はそれ以上のものでした。

また、7月13日(日)にJAいわき市小川支店において、いわき農林事務所主催による梨新規作付説明会を開催し、梨の栽培に興味を持つ方を対象に年間の栽培管理と就農支援体制について説明しました。

市内では8月18日(月)の「幸水」出荷を皮切りに、その後、「豊水」、県オリジナル品種「涼豊」、「新高」といったサンシャインいわき梨の出荷が続きます。今年の暑さの中で育った、甘くジューシーないわき梨を是非ご賞味ください。



(熱心に意見を交わす生産者)



(参加者に説明するJA担当職員)

(農業振興普及部)



無垢大断面を用いた 建築物の見学会及び講演会が 開催されました

7月18日（金）、協同組合いわき材加工センターや磐城流域いわき地区林業活性化センターなどが主催する「福島県産材JAS無垢大断面製材品木造事務所見学会」及び講演会が開催されました。

当日は、無垢材を使った新たな工法に対する関心の高さを反映し、建築士や林業・木材関係事業者、行政関係者など100名以上が出席しました。

今回、見学会を行った事務所建物は、大径無垢材や耐力壁を用い、学校や事業所など、ある程度広い開口部が必要な建築物に利用可能な構造を採用しています。このような構造が活用されることにより、地元で製材から加工、施工まで一貫して行う、地域密着型の木材利用が可能となります。

戦後植林された人工林の多くは、60年生以上と大径化しつつあることから、このような新たな建築工法が、大径木材の効果的な利用につながるものと期待されます。



（事務所見学会の様子）



（講演の様子）



「企業の森林（もり）づくり」の ボランティア活動が 開催されました

株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下、みずほFG）は、被災した福島県を応援するため、昨年4月、「企業の森林（もり）づくり」協定を福島県・いわき市・地元下大越共有山林組合と締結し、津波で甚大な被害を受けたいわき市の海岸防災林の再生に取り組む「みずほの森プロジェクト」を展開しています。

昨年10月には、「みずほの森プロジェクト」第1弾として夏井川サイクリング公園において、雑草の除去などの清掃ボランティアを実施しました。

今回は、第2弾として7月19日（土）に、植林予定地東側の海岸の清掃活動を行いました。活動にはみずほFGの社員のほか、地元下大越地区やNPO法人ザ・ピープルの方々等約100名が参加しました。

当日は、降雨の影響で予定より短い2時間ほどの活動でしたが、たくさんのゴミが拾い集められ、気持ちのよい海岸になりました。お昼には、地元の方々が下大越地区の歴史案内やじゃんがら念仏踊りなどを披露し、本年秋に予定している植林活動を前に、地域との結びつきを深めた一日となりました。



（開会式後の記念写真）



（海岸の清掃活動）

（森林林業部）



ゼロ災で行こう！！ 「磐城林業協同組合 平成26年度安全大会」

7月8日（火）、磐城林業協同組合の平成26年度安全大会が「スパリゾートハワイアンズ」で行われました。

大会には、磐城林業協同組合の構成員である15林業事業体157名が参加しました。

まず初めに、平子理事長から「労働災害を防止するためには、トップから安全衛生の担当者、労働者まで全員が現場を知ることが重要。一人ひとりが危険感受性を高め、労働災害ゼロを目指していく必要がある。今回の大会を契機に意識を高めてもらいたい。」との挨拶がありました。

次に磐城森林管理署長及びいわき農林事務所長（代読）の祝辞の後、いわき労働基準監督署安全衛生課長による「林業の安全」に係る講話、磐城林業協同組合造林安全委員長及び伐出安全委員長から造林・伐出作業時の注意事項、最後に参加者全員による「労働災害防止・安全作業の誓い」が行われ、大会は終了しました。

林業労働災害の発生頻度は、作業環境等の条件から他産業と比べて、いまだに高い状況にあります。労働災害の発生防止のため、磐城林業協同組合と連携を図りながら、安全意識の高揚と安全作業に取り組んでいきたいと思っております。



（平子理事長挨拶）



（安全大会の状況）
（森林林業部）



第22回「新舞子ふれあいの森」下刈り作業が 開催されました



7月19日（土）、22回目となるいわき青年林業会議所主催の「新舞子ふれあいの森」下刈り作業が、いわき市四倉の新舞子海岸において行われました。

新舞子海岸の松林は、海岸沿いの農耕地や集落を潮風から守るため、江戸時代にクロマツを植栽したことが始まりで、これまで大切に守り継がれてきました。

東日本大震災の津波により、マツが冠水、根抜け、倒伏したことに加え、松くい虫の被害もあって一部のクロマツが枯れていることから、昨年及び一昨年にクロマツ苗が植樹されました。今回行われたのは、このクロマツ稚樹の生長の妨げとなる雑草などの下刈り作業です。

当日は、台風の接近による降雨が懸念されたものの作業中は天気恵まれ、同会議所のメンバーのほか、市内外のボランティアなど約20名が参加し実施しました。

森林整備により大粒の汗を流した参加者は、風通しの良くなった林内を見渡しなが、クロマツ苗の成長に期待を寄せていました。



（ボランティアのみなさん）



（下刈り作業の様子）
（森林林業部）



田んぼの水はきれいかな？ どんな生き物がいるのかな？

7月8日（火）、いわき市立赤井小学校5年生児童58名による、田んぼの学校第2回活動「水質調査・生き物調査・分けつ調査」が行われました。

青空の下、始めに『水質調査』を行い、その後2班に分かれて『生き物調査』と『分けつ※¹調査』をそれぞれ行いました。

水質調査では、パックテスト※²を使って、COD※³とpH※⁴を測定し、水道水と田んぼの水、生活排水を比較しました。児童たちは、慣れない調査にとまどいながらも、自分たちの学習田の水質や、身の回りの環境について話すなど興味津々のようでした。

生き物調査は、田んぼにいるいろいろな生き物を観察するもので、今回は田んぼ表面のトロトロの層の中にある小さなイトミミズを採取して数え、そのイトミミズがどんな働きをしているのか考えました。イトミミズが見つかったと、歓声を上げながら一生懸命数えていました。観測の結果、約9アールの学習田に10万匹ものイトミミズがいるということが分かり、児童は大変驚いた様子でした。

分けつ調査では、班ごとにイネの平均分けつ数を求め、学習田全体で秋にどのくらいお米が穫れるか計算しました。児童は「5月にみんなで田植えした稲が生長し、たくさん分けつしていてうれしかった。収穫が待ち遠しい。」と話していました。

今回の活動を通して、児童たちは自然環境や田んぼの生き物に興味を持ち、身近な環境への理解が深まったようです。

次回は、9月にかかし作りを行う予定で、児童たちは今から心待ちにしています！

※1 分けつ(ぶんげつ)：イネ科などの植物の根元付近から新芽が伸びて茎が枝分かれすること

※2 パックテスト：簡易的な水質分析器具

※3 COD：化学的酸素要求量という。水質の汚れの程度を示すひとつの指標

※4 pH：酸性、中性、アルカリ性など水溶液の性質を表すひとつの単位



(イトミミズ発見！！)



(分けつ数を調べています。)



(みんなで協力して調べています。)

(農村整備部)



いわきの漁業の現状を学ぶ バスツアー

7月26日（土）、いわき市漁業協同組合が、いわき市在住の方々を対象に、「放射性物質検査室の見学」及び「試験操業や水産物の放射性物質モニタリング結果の講演」を内容としたバスツアーを開催しました。ツアーには、定員（40名）ちょうどの申し込みがあり、31名の方々が実際に参加しました。

参加者の方々はみな熱心で、検査室見学の際や講演終了後には、「放射性物質検査の頻度」や「放射性セシウムの独自出荷基準」等に関して質問していました。



(検査室見学（前処理の様子）)



(参加者から講師への質問)

(水産事務所)



いちご部会総会が 開催されました



7月17日（木）、平成25年度JAいわき市いちご部会総会及び出荷反省会が新舞子ハイツで開催されました。総会では、優良出荷者の表彰が行われ、部門ごとの優良出荷者に記念品が贈られました。

いちご部会は、昭和44年に平農協夏井苺部会として設立され、今年で45周年を迎えます。これまでの部会の歩みがJAいわき市から紹介され、最盛期には200戸、30haに及ぶ産地まで成長したことが説明されました。

本年は出荷量では前年比99%、販売金額は前年比101%を達成しましたが、近年は高齢化や後継者不足により産地は縮小傾向にあり、産地の維持強化が課題となっています。

今後とも関係機関と協力しながら、信頼される産地として、部会活動の強化を図り、部会員の支援、後継者の育成、新規就農者の募集等に一層力を入れていくことを確認しました。



(総会の様子)



(いちごのハウス栽培)
(農業振興普及部)



「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを 開催しました

7月26日（土）、いわき市内郷のマルチショッピングセンター高坂店において「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました。

県産農林水産物への風評を払拭するため、消費者へ県産農林水産物の美味しさや安全性を再認識していただき、県内消費を増やし地産地消を推進していくことが必要となっています。このため、いわき農林事務所では消費拡大キャンペーンの一環として、県産農林水産物をPRしました。

県産農林水産物の放射性物質検査結果や「ふくしま新発売」のパネルの展示及びチラシの配布により、県産農林水産物の安全性をPRし、また、いわき産の旬のトマトやキュウリをプレゼントし、農産物に関するアンケートを来店者に協力いただきました。新鮮ないわき産野菜のプレゼントは、多くの方々に喜んでいただきました。

アンケート結果から、流通している県産農林水産物については、放射性物質検査を実施していることをほとんどの方が知っているという回答され、安全性への関心の高さと県産農林水産物の放射性物質検査体制が消費者へ十分浸透していることがわかりました。



(旬のトマト、キュウリを配布しました)



(アンケート用紙に記入している様子)
(企画部)

第3弾！！
「いわき野菜deチョコベジ」
が開催されました！



7月27日（水）、JAいわき市直売所新鮮やさい館谷川瀬店の主催（後援：いわき農林事務所、いわき市見せる課）による、いわき市産の野菜を使った第3回親子チョコベジ体験が開催されました。「チョコベジ」とは、野菜にチョコレートソースを付けて食べる、野菜をより楽しく・おいしくする新しいスタイルの食べ方です。

参加者は、市内の4組12名の親子で、今回はクイズや旬の野菜を使ったプチバイキングも盛り込んで、楽しんでいただきました。

講師の野菜ソムリエ木下麻美さんから、今回食べる野菜（オクラ、きゅうり、なす、みょうが、ゴーヤ）のマメ知識をクイズ方式で説明いただいた後、親子でチョコレートソースづくり、野菜を切る体験をしました。今回は全ての食材を生でいただきました。盛りつけも、ワンプレート風にまとめたり、てんこ盛りもあったりと各自工夫していました。

子供たちは、「オクラおいしい！初めて食べた！」、「きゅうりと合うね！」、「ゴーヤのワタはあまり苦くないんだね！」と、チョコベジを楽しみながら、食材そのものの味も堪能していました。

また、いわき農林事務所から提供した旬の野菜を使ったジュース2品や料理4品をプチバイキング方式で試食していただきました。

メニューは、桃ゴーヤジュース、キュウリジュース、キュウリの佃煮カナッペ、ゴーヤの佃煮、ミニトマトのおひたし、ミニトマトのマリネでした。

気軽に作れること、旬の野菜をふんだんに使えることから、特にお母さん方には好評でした。

第4弾秋野菜のチョコベジは11月2日（日）に開催予定です。若い世代のいわき産野菜のファンがより増えることに期待しています。



（参加者全員集合！！）



（お野菜クイズ）



（子供さんのアイデア、ワンプレート風に）
 （農業振興普及部）



アクアマリンでの
カツオたたき等試食

7月26日（土）、27日（日）に小名浜機船底曳網漁業協同組合（以下、小名底漁協）が、「薫焼きカツオ」といわきの郷土料理「かつお揚げびたし」の試食提供をアクアマリンふくしま内の「えっぐの森」で行いました。

「薫焼きカツオ」は、市内の加工業者さんが生産したもので、薫で焼き上げる本格派のたたきです。

「かつお揚げびたし」は、素揚げしたカツオを醤油・みりん・生姜等を合わせた漬け汁に漬け込んだもので、刺身やたたきとはひと味違った風味が楽しめる逸品です。

場所柄、家族連れのお客さんが多く、子供にも大人にも大好評でした。「かつお揚げびたし」を調理した小名浜魚市場女性部は、今後も各種イベント等で地元の水産物を用いた試食、販売等を行っていく予定ですので、お見かけの際は是非ご賞味ください。



（「薫焼きカツオ」と「かつお揚げびたし」の試食提供）

（水産事務所）



細谷、沢帯（ざわみき）地区の 排水対策について ～復興交付金事業による 湛水防除事業の実施に向けて～

いわき市沿岸では、東日本大震災の大津波により12地区の農地約459haが浸水被害を受け、水田の除塩を実施するなどして、順次、営農を再開してきました。しかし、地震により地盤沈下が発生したことで、沿岸部の低地では排水条件が悪化し、農地に水が溜まりやすくなった地域があります。

二級河川横川、原高野（はらごや）川、夏井川に接したいわき市四倉町細谷地区及び平下神谷（しもかべや）沢帯（ざわみき）地区には、大雨時の農地湛水被害を軽減するため、細谷排水機場及び沢帯排水機場を設置・運転していますが、津波による直接の被災はなかったものの、大震災後はそれ以前と比較し機場の運転時間が2～3倍になり、運転操作員の負担や維持管理経費の増大が発生しています。

これらの状況を改善するため、福島県は、これら2機場について運転管理の省力化や排水能力増強のための事業計画を策定し、機場を所有するいわき市と共同で、国の復興交付金事業計画を復興庁に申請し、本年6月に事業として認められました。

いわき農林事務所ではこの事業を進めるに当たり、去る7月31日、機場を管理する磐城小川江筋土地改良区役員、機場運転操作員、関係行政区長を対象に、事業概要の説明会を開催しました。

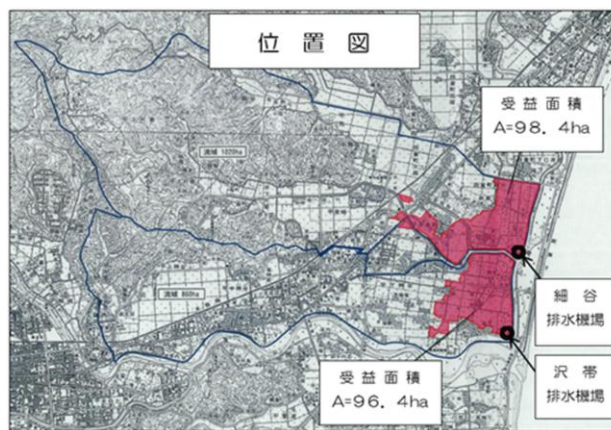
説明会では、運転員を始め出席者から、より機能的で地域の実態に即した改修となるよう、建設的な提案がなされました。その発言には、機場運転をとおして農地だけでなく宅地を含む社会基盤の安心・安全を守っているという責任感が感じられ、事業に対する期待の大きさを強く感じました。

9月には、土地改良法に基づき、磐城小川江筋土地改良区を通じ、関係農家の皆様には同意書提出をお願いすることになります。また、工事の設計に当たり、運転員の皆様に再度御意見を伺い、より良い工事となるよう、また一日も早く完成できるよう努めてまいりますので、関係者の皆様には御理解と御協力をお願いします。



【事業計画概要】

- ① 事業名：農山漁村地域復興基盤総合整備事業（農地防災事業）
細谷・沢帯地区
- ② 総事業費：9億3千万円
（国・県・市が負担予定）
- ③ 工事概要：細谷排水機場、沢帯排水機場
電動ポンプ設備の増設、既設ポンプ設備の改修（増強）
- ④ 工程概要：平成26年度下半期に詳細調査・測量・設計
平成27年度から工事着手



(位置図)

(農村整備部)

いわき花き鉢物研究会員が生産している季節の鉢花

先月よりいわき市役所といわき農林事務所では、いわき花き鉢物研究会員が生産している鉢花の展示をしています。今月はサザンクロスとカンナです。

まず、サザンクロス（別名クロウエア、ミカン科）をご紹介します。サザンクロスは、オーストラリア原産の常緑生の低木で、花は5枚の花弁が星状に上向きに咲きます。その形状から日本では「サザンクロス」の名称で流通しています。

寒さや乾燥には比較的強いですが、高温にはやや弱く、ほぼ四季咲きの性質を持っています。

次に、カンナ（カンナ科）をご紹介します。青空の下、花壇を彩る赤や黄色のこの花は、夏の花壇の代表的品目です。耐暑性は高いですが、耐寒性が低いため、冬に球根を一旦掘り上げて貯蔵する必要があります。

鉢植えを購入した際は、最初の花が終わった後花壇等に植えると、秋まで次々と新しい花を楽しむことができます。



(サザンクロス)



(カンナ)

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
(1)モニタリング情報検索
(2)出荷制限等一覧表



「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>

いわき農林水産ニュース

